



深谷市立藤沢小学校の取組

1 本校の概要

本校は埼玉県北部に位置し、本年度は開校133周年目を迎える学校である。全校児童は525人、学級数20の中規模校である。

学校教育目標「なかよく、かしこく、たくましく」のもと、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいる。今年度は「みんなが安心して生活できる学級をつくろうとする児童の育成～自治的、自発的な学級会の充実を通して～」を学校研究課題として学級活動の指導方法について学び、これまでの教育活動や学級経営がさらに充実したものとなるように研究を進めている。



2 令和2・3年度の結果

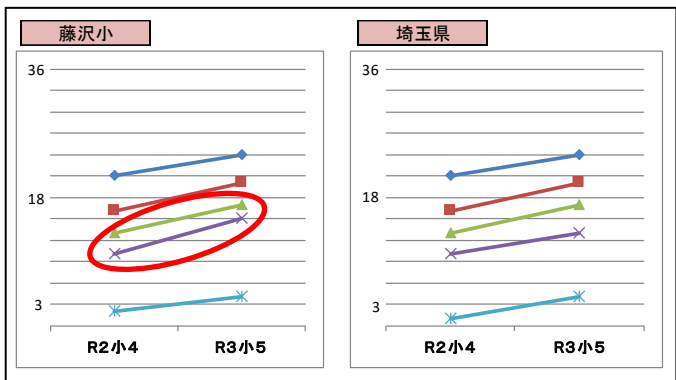
小学校4年生→小学校5年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

学力の伸びの状況

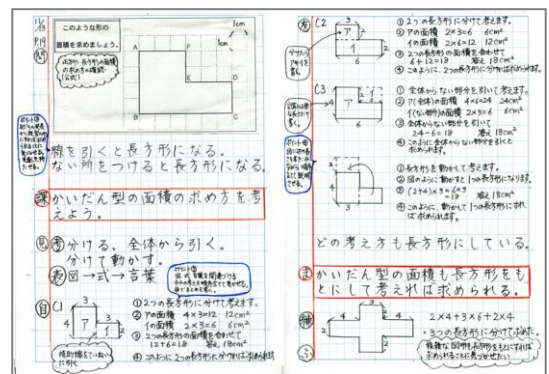


- 算数の学力のレベルが4ポイント上昇しており、県の伸びを上回っている。
- 中位層の学力の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 学年での共通の指導

児童のノートに、単元間や学年間の学習内容のつながり(系統性)を大切にするために残したい図・表・グラフ等を印刷して貼らせることで、学習内容の足跡がしっかりと残るようにした。また、教師の作成したノート指導案を学年で共有し、ポイントを押さえた授業を展開した。



ノート指導案

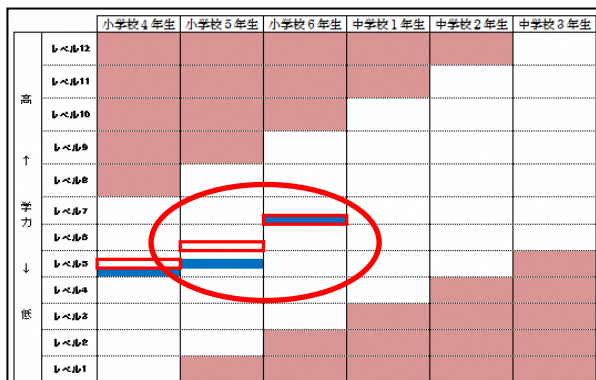
イ 教師の意図的な発問による練り上げの充実

児童の考えを比較・検討する場面においては、教師の一方的な説明や上位層の児童中心による授業進行を避けるためにも、教師が意図的な発問をし、下位層から上位層まで多くの児童を巻き込んで共通の考え方等を練り上げられるように工夫している。具体的には、教師が児童の考えを「つながり発問」と「ねらった発問」によって、学習内容の共有化を図れるようにした。また、必要に応じてペアやグループでの話し合い活動も取り入れ、児童同士が共に学び合えるようにした。

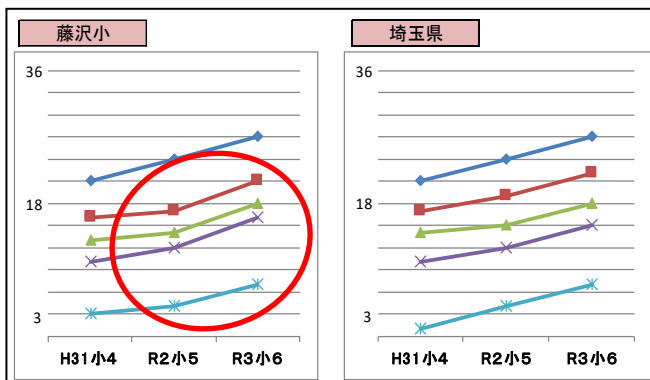
小学校5年生→小学校6年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【算数】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 算数の学力のレベルが5ポイント上昇しており、県の伸びを上回っている。
- 小5から小6にかけて、中位層と下位層の学力の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 効果的な少人数指導とT T（チームティーチング）の実施

単元の初めは少人数指導を行い、単元末の練習問題のときにはT Tで授業を行った。T Tの授業では、自力で問題を解くことができる児童には、T 1が丸付けをしたり発展問題を与えたりし、つまづいている児童には、T 2が個別指導をしながら見届ける体制をとった。単元末の練習問題をT Tで行うと、学級全体の児童の習熟度を把握でき、個に応じた指導を充実させることができた。

イ プリントを活用しての反復練習

テスト返却後に、間違えた問題箇所の解き直しを徹底した。分からない問題については、教師が分かるまで丁寧に教えた。さらに、類似問題のプリントを配布し、隙間時間を使ってできるようになるまで繰り返し取り組ませ、確実な見届けを行った。

学校全体での取組

ア 算数の学習の進め方の統一

年度当初に、全職員で「ノート の 使い方」や「板書 の 書き方」について共通理解・共通行動を図っている。どの教師も同じような授業スタイルで指導することにより、どの児童も混乱することなく、安心して授業に臨むことができています。

イ もくもくタイム

木曜日の朝学習の時間を「もくもくタイム」と設定し、算数の問題に取り組んでいる。低学年は、計算プリントを活用し、計算領域の習熟を主な目的としているが、4年生以上の学年では、全国学力・学習状況調査の記述式の問題にも取り組ませ、問題に慣れることや思考力・判断力・表現力を伸ばすことにも力を入れている。

ウ 基礎的・基本的な内容の確実な定着

計算ドリルを活用し、少なくとも3回は同じ問題に取り組ませるようにし、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っている。また、2月の学力向上週間を利用し、3年生以上の学年は、県が作成している復習シートを積極的に活用している。朝学習の時間や家庭学習等でも取り組ませ、学習内容のさらなる定着や復習に役立てている。